

情報連絡員報告総括表(平成28年5月分)

三重県中小企業団体中央会
 連絡員総数 40名
 回答数 40名 (100%)

業界の景気動向(前年同月比)

	売上高			在庫数量			販売価格			取引条件			収益状況			資金繰り			設備操業度			雇用人員 (臨時・パートを含む)			業界景況							
	増加	不変	減少	増加	不変	減少	上昇	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	好転	不変	悪化	上昇	不変	悪化	増加	不変	減少	好転	不変	悪化					
製造業	食料品		4		4		1	3			4			3	1		3	1		4			4			3	1					
	繊維工業	1		2		3		2	1		2	1		1	2		2	1	1	1	1		3			1	2					
	木材・木製品			1		1		1				1			1		1				1		1				1					
	紙・紙加工品		1	1		1	1		2		2			1	1		2				2		1	1		2						
	印刷		1			1		1			1			1			1			1			1			1						
	化学・ゴム																															
	窯業・土石製品	2		1		3			3		3			2	1		3			2	1		3			2	1					
	鉄鋼・金属			1			1		1		1				1		1				1		1				1					
	一般機器		3		2	1			1	2		2	1		1	2		3			3		1	2			3					
	電気機器			1		1				1			1		1						1		1				1					
	輸送機器			1		1				1			1		1						1		1				1					
その他																																
小計	3	9	8	2	16	2	1	14	5		15	5		9	11		16	4	1	11	8	1	18	1		12	8					
非製造業	卸売業		1	1		1	1		1	1		2		1	1		2		X				2			1	1					
	小売業	1	3	2	1	5		2	3	1		5	1		2	4		3				3			6			2	4			
	商店街		1			1		1				1			1			1								1			1			
	サービス業	1	2	2	X				4	1		4	1		3	2		3				2				4	1		4	1		
	建設業	1	2	1					3	1		3	1		3	1		3				1		3	1			3	1		3	1
	運輸業		1						1			1			1			1						1				1			1	
	その他		1									1			1			1						1				1			1	
小計	3	11	6	1	7	1	3	12	5		17	3		11	9		14	6				18	2		13	7						
合計	6	20	14	3	23	3	4	26	10		32	8		20	20		30	10	1	11	8	1	36	3		25	15					

最近の主要指標の前年同月比D Iの推移

(平成27年5月～平成28年5月)

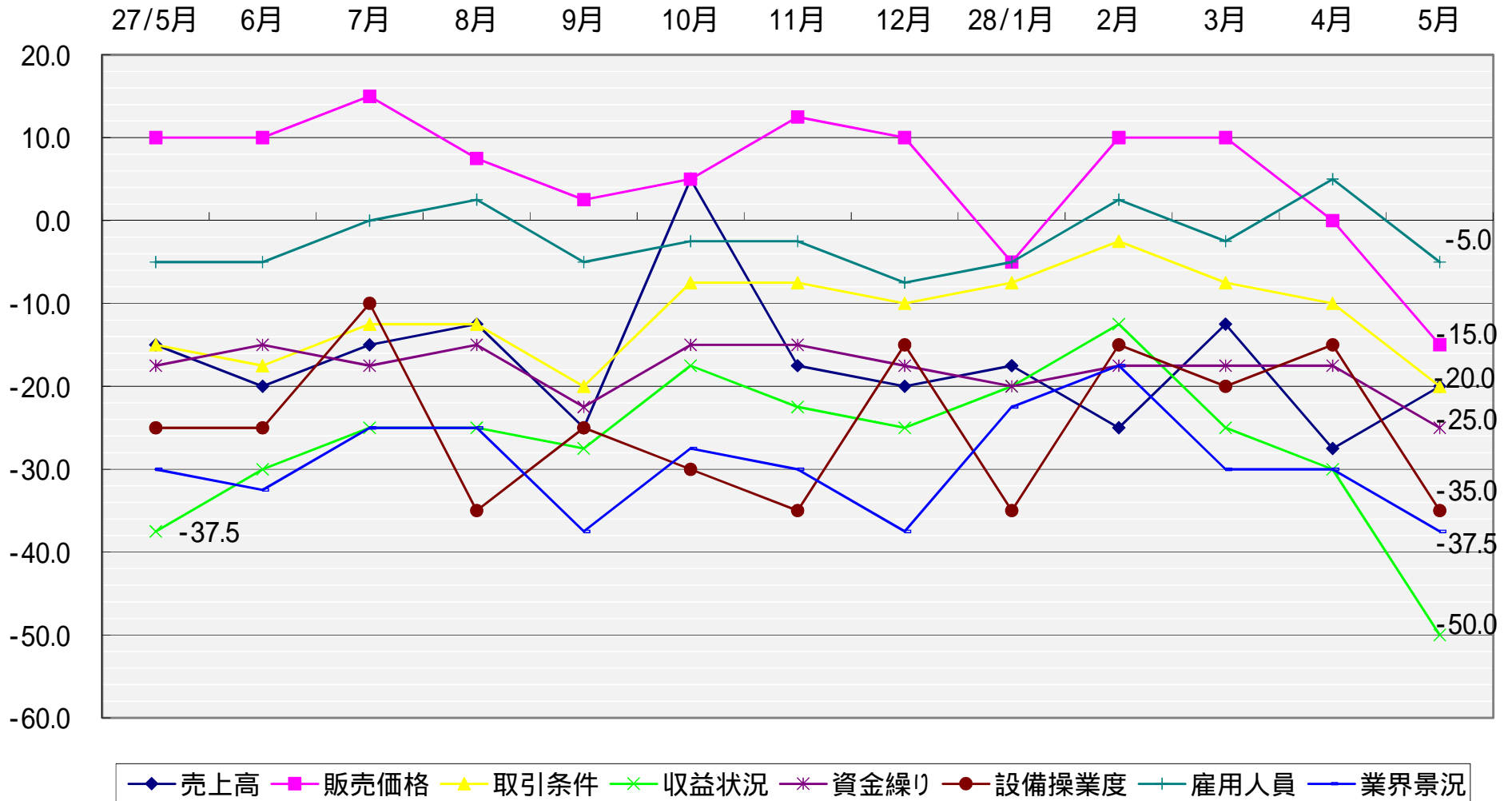
三重県中小企業団体中央会

連絡員総数 40名

	27/5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	28/1月	2月	3月	4月	5月	増減
売上高	-15.0	-20.0	-15.0	-12.5	-25.0	5.0	-17.5	-20.0	-17.5	-25.0	-12.5	-27.5	-20.0	7.5
販売価格	10.0	10.0	15.0	7.5	2.5	5.0	12.5	10.0	-5.0	10.0	10.0	0.0	-15.0	-15.0
取引条件	-15.0	-17.5	-12.5	-12.5	-20.0	-7.5	-7.5	-10.0	-7.5	-2.5	-7.5	-10.0	-20.0	-10.0
収益状況	-37.5	-30.0	-25.0	-25.0	-27.5	-17.5	-22.5	-25.0	-20.0	-12.5	-25.0	-30.0	-50.0	-20.0
資金繰り	-17.5	-15.0	-17.5	-15.0	-22.5	-15.0	-15.0	-17.5	-20.0	-17.5	-17.5	-17.5	-25.0	-7.5
設備操業度	-25.0	-25.0	-10.0	-35.0	-25.0	-30.0	-35.0	-15.0	-35.0	-15.0	-20.0	-15.0	-35.0	-20.0
雇用人員	-5.0	-5.0	0.0	2.5	-5.0	-2.5	-2.5	-7.5	-5.0	2.5	-2.5	5.0	-5.0	-10.0
業界景況	-30.0	-32.5	-25.0	-25.0	-37.5	-27.5	-30.0	-37.5	-22.5	-17.5	-30.0	-30.0	-37.5	-7.5

(注1) 「D I」はデフレーション・インデックスの略で「増加」・「好転」したとする
企業割合から、「減少」・「悪化」したとする企業割合を差し引いた値である。

最近の主要指標の前年同月比DIの推移



情報連絡一覧票 (三重県中小企業団体中央会・平成28年5月分)

	集計上の分類業種	具体的な業種	組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点)
製造業	食料品	醤油味噌	5月はサミットがあったので、4月～5月に全国の量販店4店で「三重しょうゆ街道」という県産しょうゆなどの宣伝販売を行った。今後は、県内で行う予定である。サミットでは、原材料も含め、県産醤油(伊勢醤油)が使用された。今後も県産醤油・味噌の販売に期待したい。
		豆腐	5月に国産大豆が旧穀(平成26年度)から新穀(平成27年度)に切り替わり、60kgあたり1,500円程安値となった。
		製麺	伊勢志摩サミットの影響で、伊勢うどんがテレビ、ラジオなどのメディアを通して様々なところで取り上げていただき感謝している。伊勢うどんがメディアで取り上げて頂いている中で、業界としても、商品の安定、安全な商品作りに邁進し、ブランド力を高めていく。
	繊維工業	テントシート	個々で見れば業況が良い事業所もあるが、全体としては悪くなったとする事業所が多い様に思われる。
	紙・紙加工品	紙器段ボール	サミットによる経済効果もマイナスの影響となり、モノの動きも悪かった。今後の観光客の増加に期待する。全国的には、好天により、青果物や飲料関係を中心に段ボールケースが堅調に出荷された。
		古紙	5月期の仕入れ量は、前年比で段ボール:約98±3%、新聞・チラシ:約92±8%、雑誌・雑紙・その他合わせて:約96±5%の中での推移と思われる。月初め連休頃は飲み物や家庭紙等の出荷が好調だったようである。地域的にもサミットの経済効果があったと感じる。段ボール古紙については、国内出荷が前年並み前後となり、取引先によって古紙の発生量に差があるように思う。集荷方法や契約によって集荷量が改善した組合員もいるようだ。サミット後の円高が続く、輸出価格の国内手取り、円での価格に影響が出ている。選挙で紙の使用量が増えるが、プラスチック等で出来た合成紙等のリサイクルしにくい古紙の混入が懸念される。ロウ引き段ボールの混入は、季節の果物が多かったため、発生と混入は沈静化してきている。得意先の取り合い、入札物件の競争激化、段ボール古紙集荷の寡占化(管理会社管轄)等々、自由とは言えない厳しい現実もあり、日本の経営の中小零細企業は適者生存・次世代への引継ぎ等があり、選択と運が大きく影響すると思う。
	印刷	印刷	昭和30年に設立された当組合は、創立60周年記念式典を開催した。これからの組合のあり方について、ニーズが多様化・高度化している中で企業それぞれの強みを相互に協力しあえる組合を目指すことが講じられた。また青年部では今年も県民手帳入札のための企画者会議が連日行われている。
	窯業・土石製品	伊賀焼	伊賀焼伝統産業会館および伊賀・信楽古陶館の入館者数は減少しているが、バスを利用する団体客の減少によるものと思われる。しかし売上については両館とも連休の好天気恵まれ、昨年並みとなった。
	鉄鋼・金属	鍍金	当業界全体の生産量としては、4月と比べ若干減少した。三重の組合員としては、4月とほぼ同様であったが、扱う製品によって増加した企業と減少した企業に分かれた。半導体関連は、夏過ぎまで増加すると言われていたが、5月中休みといった状況であった。6月から8月まではある程度の好調さは続くと思われる。
	一般機器	四日市	このところ売上高は、先月比横這いからやや減少という企業が増加している。自助努力だけでは対応しきれない、大企業とは違う要因があると感じている。利益が確保出来ないことが、企業の先行きに不安を持つ原因である。
		鈴鹿	トヨタ自動車関連部品メーカーは、相次ぐ事故、災害の影響(1月の愛知製鋼の爆発、4月の熊本地震、5月30日はアイシン子会社の爆発)で、トヨタが一時生産停止、それによって下請け各社も減産に追い込まれた。
	電気機器	鳥羽	新年度に入っても状況は非常に悪化、昨年同期に比べても20%ダウンの推移。最近では、デフレ現象を起こすコストダウン競争に入っている。
	輸送機器	鈴鹿	熊本地震の影響により、熊本県内にある大手自動車メーカーの二輪車工場向け部品の出荷が止まっていたが、部分的に再開し、停止分を7月以降に上乗せしての挽回計画も出てきた。その一方でまだ再開の目途が立っていない部署もあり、本格的な再開には至っていない。伊勢志摩サミットの影響も大きなものはなく、新年度以降は全体的に低調なままである。
非製造業	小売業	青果	野菜は連休後の入荷は全体的に不安定であった。特にニンジンが高値で、レタス・ホーレン草も高値であった。トマト・胡瓜・ナスは安定して入荷し、新玉葱はお値打ちであった。後半はジャガイモは高値が続く、ニンジンは徐々に増加、キャベツは安定して入荷し、鳥取産ラッキョウ・県内産小梅は高値であった。果物は全体的に高く、終盤のイチゴは需要が多く高値、熊本産スイカ・メロンも高値であった。後半はスイカが産地が熊本から愛知に切り替わり安定して入荷し、メロンは豊作で価格も安くなるようであった。鳥根産デラウェア(ぶどう)は増加しており、期待できる。県内産大梅は安値である。

非製造業	小売業	自転車	27年度自転車産業の状況が自転車産業振興協会より発表された。東日本大震災の年を除き国内向台数は、7年連続減少となった。(1)国内生産台数は89万8千台(前年比:94.4%)(2)輸入台数712万2千台(前年比:92.1%)で合計国内向台数は、802万台(前年比:92.3%)となり、減少した理由として円安及び最も輸入の多い中国の人的費上昇と商品の高騰によるものである。特に一般軽快車(89.6%)と子供車(89.1%)の減少が目立ち、スポーツ車は昨年並みであった。今後、小売業界は、一層厳しさが増す予想である。
		家電	5月度は毎年ゴールデンウィークによるプラスの影響もなく、販売面では前年比でやや厳しい状況である。気温差の大きい日々が続き、夏物商品(エアコン・冷蔵庫)の需要も停滞している。伊勢志摩サミットのプラス効果もなく、業界としては厳しい結果であると思われる。消費税増税も延期の見通しであり、リオオリンピック特需(4Kテレビ)に期待をしている。
		石油	5月の燃料油販売数量については、前年対比5%~6%減販であった。特に伊勢志摩サミットの交通規制等の影響において観光客の減少が大きい。産業用軽油については、トラック運送関係の需要があり、前年比4%前後の増販があった。収益については、販売価格の低迷により、厳しい状況が続いているのが現状である。
		スポーツ用品	伊勢志摩サミットが終了した。経済活動はほとんどできず、物販業者としては厳しい半月であった。スポーツ業界としては5月末がインターハイの三重県予選で物品の業者が遅れて納品に困惑した。しかし無事にサミットが終了して安堵している。
	商店街	熊野	今年のGWは、後半に伸び悩み感があつたため、前半に人出が集中したように感じる。サミットの影響も多少はあつたと考えられる。また、今月末、駅前で開催された市主催のイベントは、今年も商店街の朝市イベントとの連携を図り、隣接併催した結果一層の集客効果となり、出店業者全体の売上も従来以上であった。
	サービス業	旅館	5月のGWは間際の予約が発生して少しは好転したものの、ピークの2、3日以外はかなり低調であった。入込客数の発表があつたが、実感とはかなりの差があつた。サミットが開催された週は一般の宿泊客は激減して警備関係者等を受け入れていない施設は開店休業状態であった。サミットの成功に向け、組合では関係者の受け入れに全面的に協力したが、結果的には客室の押さえ過ぎ、予約解除が遅い、利用施設の平準化ができなかった等、多くの問題を残すこととなった。しかし無事に終わったことは何よりで、今後は官民あげて挽回に努めてもらいたい。
		警備	サミット関係の警備で工事受注の減少を補った。
	建設業	内装工事業	4月に引き続いて需要の大幅な減少により、前年同月比はかなり減少となっている。新年度の立ち上がりとしては、非常に厳しい状況である。
		水道工事業(四日市)	今月に関しては特に大きな変化は見られなかった。伊勢志摩サミットの影響もほとんど感じられなかった。
	運輸業	トラック	軽油価格が値下がりしてきており、今後の動向が懸念される。

行政庁・中央会に対する要望事項

集計上の分類業種	具体的な業種	行政庁・中央会に対する要望事項、または関心のある事項、意見等
食料品	製麺	今後も伊勢うどんの取組みに支援頂きたい。
一般機器	四日市	消費税の値上げが先送りされた。財源をどこに求めるのか。物価の値上がりや消費動向の低下、企業の投資意欲減退が怖い。
	伊勢	県の補助金や制度融資等については、経験や金融機関・取引先等からの情報がなくうまく活用できない。設備投資のタイミングの問題もあるが、組合員の相談、困り事などのアドバイスできる様、引き続きサポートをお願いしたい。
サービス業	旅館	サミット効果を最大に活かしたPRによる集客、特に訪日インバウンド旅行客数が県全体と高山市(岐阜県)と約同数で、インバウンド後進県と言われているが、それだけに伸びしろも充分あるので、これを機に誘客に努めてもらいたい。
運輸業	トラック	景気回復が後退しないよう内需拡大施策を実行してほしい。